

# 小林式誘引捕獲法 捕獲事例

## ●滋賀県（滋賀森林管理署）

- 令和4年8月28日から10月25日（約2ヶ月）の期間において、甲賀市の三郷山国有林で捕獲事業を実施。
- 約40基のくくり罠を小林式誘引捕獲にて1,914TN\*実施したところ、シカを85頭捕獲。捕獲効率は0.044と高い値となった。また、空はじきは9回発生。

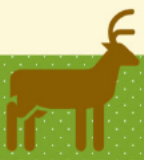
\*TN（トラップナイト）とは、それぞれの罠を何日設置したかを合計した数値



▲捕獲の様子

罠設置の様子▶  
(餌はハイキューブを使用)





# 小林式誘引捕獲法 捕獲事例

## ●和歌山県（和歌山森林管理署）

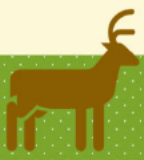
- 平成29年8月から平成30年3月にかけて、日高郡日高川町の西ノ河（にしのごう）国有林で捕獲を実施。
- 約40基のくくり罠を小林式誘引捕獲にて1,210TN\*実施したところ、シカを61頭捕獲。捕獲効率は0.05と高い値となった。
- 西ノ河国有林では、平成29年以降、毎年継続して捕獲を続けており、近年は近隣の民有林においてもシカによる被害が減っていると報告されている。
- 捕獲個体は、ポリエチレン排水管を活用した残渣減容化により効率的に処理をしている。



▲ 捕獲の様子

残渣減容化の様子▶  
(穴の深さが約3mあり、捕獲  
個体を投入後に蓋をする)





# 小林式誘引捕獲法 捕獲事例

## ●鳥取県（鳥取森林管理署）

- 令和4年7月から令和4年10月にかけて、若桜町の小舟山国有林で捕獲を実施。若桜町猟友会、若桜町鳥獣対策協議会、（株）東部林業、鳥取森林管理署が「ついで見回り・通報」\*の連携協定を締結し、地元猟友会が主体となって捕獲を行っている。
- 林道から見通せる箇所に罠を設置できる小林式誘引捕獲法を用いて41頭のシカを捕獲することに成功した。

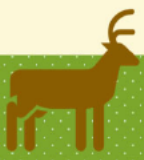
\*「ついで見回り・通報」とは、狩猟者が設置した罠を林道工事や森林整備の受注者が朝・夕の通勤時に見回り、捕獲等が確認された際に狩猟者へ通報することで、奥山において効率的なシカ捕獲を行う取組です。



▲罠設置を行う猟友会員

現地検討会の様子▶  
(捕獲手法やついで見回りの説明を実施)



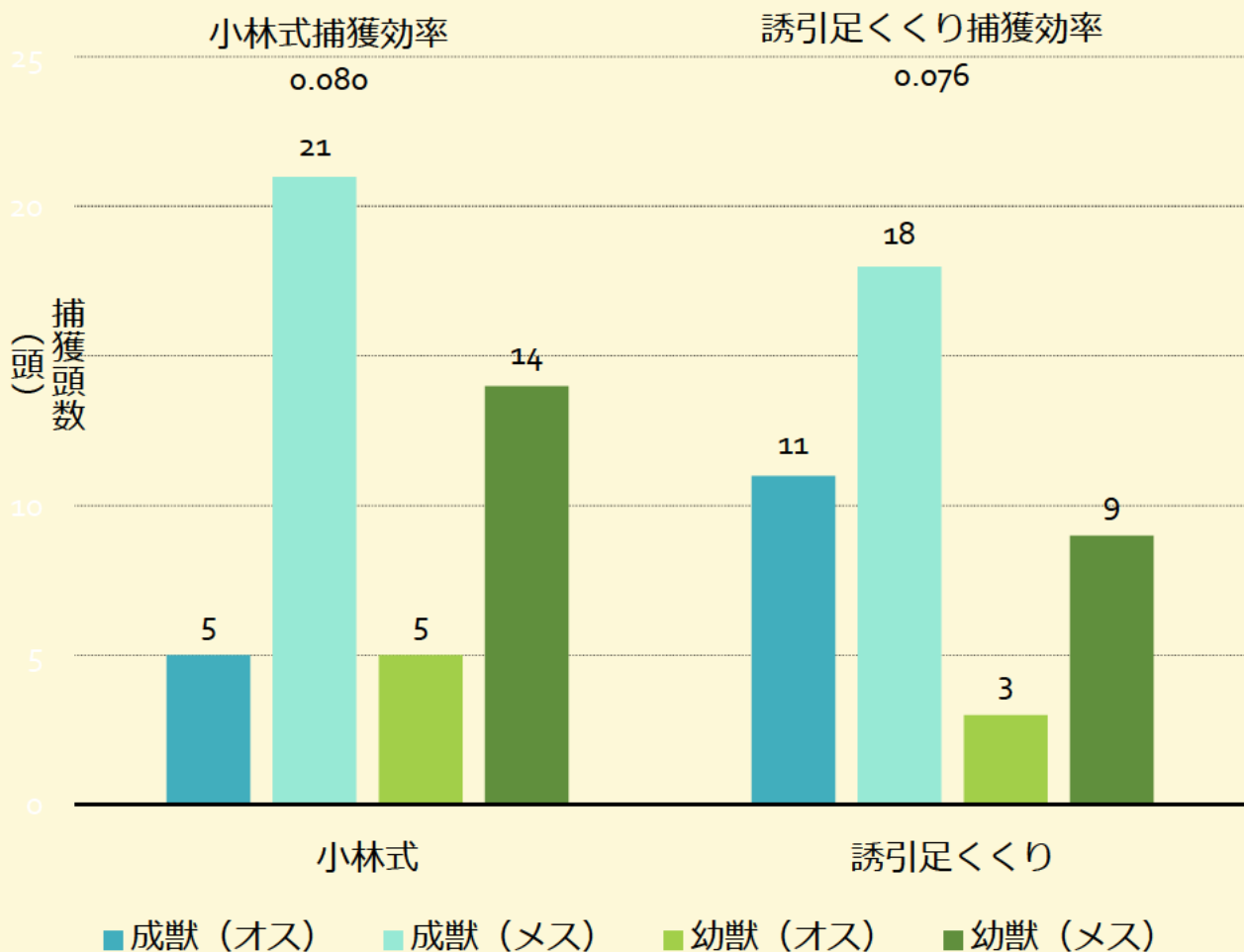


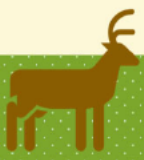
# 小林式誘引捕獲法 捕獲事例

## ●兵庫県（兵庫森林管理署）

- ・令和2年2月から令和2年3月にかけての約1ヶ月の期間において、たつの市の鶏籠山国有林外で捕獲事業を実施。
- ・小林式誘引捕獲法にて45頭のシカを捕獲、また、誘引足くくり\*にて41頭のシカを捕獲。
- ・小林式誘引捕獲法は、ベテラン猟師が設置した誘引足くくりをわずかに上回る捕獲効率となった。

\*「誘引足くくり」とは、けもの道へ罠を設置し、その近くに餌を撒くことで捕獲率を上げる手法





# 小林式誘引捕獲法 捕獲事例

## ●奈良県

・奈良県では、シカによる森林被害緊急対策事業（林野庁事業）を活用し、平成30年に小林式誘引捕獲法による捕獲を実施。奈良県野迫川村内の民有林において、平成30年11月20日から12月19日まで20基の罠を設置。その結果、30頭のシカを捕獲。従来の手法と比べて約5倍の捕獲効率となった。

### 3. シカ誘引捕獲法の紹介(くくりわな) —小林式誘引捕獲法—

#### 捕獲効率の比較(事例紹介)

奈良県内で「シカによる森林被害緊急対策事業(林野庁)」を活用し、平成28年度から平成30年度の3年間、野迫川村で実施したシカ捕獲モデル事業の捕獲結果は下表のとおりでした。「小林式誘引捕獲法+わなの移設」によって、捕獲効率が大幅に上昇しました。

年度	捕獲方法	捕獲期間	捕獲頭数	捕獲効率 (頭/基数×日数)	備考
H28	箱わな(檻):2基 くくりわな:22基 (獣道に設置)	45日間 (10月、 12月~1月)	11頭	0.012	クマ人身事故により事業を一時中断し捕獲時期が冬季に。積雪によるわな不動により捕獲数が低迷。
H29	くくりわな:40基 (餌の周囲にわな設置)	46日間 (10月 ~12月)	17頭	0.009	誘引により前半は順調に捕獲が進むが警戒心の高まりに伴い、捕獲数が低迷。
H30	くくりわな:20基 (小林式誘引捕獲法+わなの移設)	30日間 (11月 ~12月)	30頭	0.050	小林式誘引捕獲法と警戒心の高まり対策として実施したわな移設が功を奏し、捕獲頭数が増加。

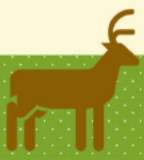


平成28、29年度事業のわな設置状況  
(箱わな、くくりわな)

平成30年度事業のわな設置状況  
(小林式誘引捕獲法)  
※餌はハイキューブを使用

#### 誘引のポイント

- 植生や周辺の農産物、季節によって動物の嗜好は変わります。まずはその地域に適した餌を見つけることが大切です。
- 動物が自由に食べることのできる餌の有無によって誘引の難易度が変わります。
- 下層植生の衰退した人工林内など、餌が乏しい地域ほど誘引しやすくなります。



# 小林式誘引捕獲法 捕獲事例

## ● 栃木県

- 栃木県佐野市の林家の遠藤氏は、約800haの山林を経営している。近年、シカ被害を受け、様々なシカ害対策を実践。令和2(2020)年から小林式誘引捕獲法を実施。
- 20基のわなで、令和3年は70頭以上、令和4年は4月16日から令和5年2月6日までの期間で150頭と高効率でシカを捕獲している。精力的にシカ捕獲を続けた結果、忌避剤のみで新植地の食害がほぼ無くなるなど被害対策に効果が表れている。

**特集**

驚くほどシカが捕れる！

**「小林式誘引捕獲」**

再造林の機運が高まる中、山林所有者の大きな懸念はシカによる苗木の食害です。この懸念に対する答えの一つがシカの捕獲ですが、近年、新たな捕獲方法が脚光を浴びています。くくり罠の初心者でもシカを効率よく捕獲できる「小林式誘引捕獲」です。

そこで今月の特集は、実習者・小林正典さんによる観察解説と、林家の遠藤厚寛さんによる実践という2冊構成で「小林式誘引捕獲」をご紹介します。

【編集部】

■特集1／くくり罠を使用する「小林式誘引捕獲」とは 文・小林正典／林野庁近畿中国森林管理センター ↓ 255頁

■特集2／「自分の山は自分で守る」林家による捕獲の実践（遠藤厚寛さん／栃木県） ↓ 105、151頁

1 林業新知識 2022.10

**所有林で実践「小林式誘引捕獲」**

石で囲い、餌（ハイキュー等）でシカをおびき寄せます

罠中のくくり罠を指差す遠藤厚寛さん

目印となる棒を立てておきます（右）。くくり罠のワイヤロープを5字目印に棒を立ておくと（左）、シカがかかった時にワイヤロープが引っ張られ罠が倒れる仕掛けです

手前の車道際の造林地にくくり罠を設置。罠の見回りも、かかった後の処理も容易です

12 林業新知識 2022.10